

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

連番	923	例会No.	OP296	内容	台高・山ノ神ノ頭～大台ヶ原「近畿の山リレー登山No.7」	実施年月日	2019/11/2～4	担当者	杉本、小椋(勝)
参加者	杉本康夫、小椋勝久、板谷佳史、保木道代、上野あさみ、大森朋江							参加者数	6
担当者コメント	<p>11月2日 大和上市駅で予約していたタクシーで三之公谷林道の終点の登山口まで行ってもらい。山ノ神の祠から三之公谷に降りて小さな橋を渡ると立派な休憩小屋がある。そこからいきなり2時間の痩せ尾根の急登で茸股谷分岐に出る。この付近から尾根が広くなりブナなどの広葉樹林が広がる。山ノ神ノ頭から台高山脈の稜線は痩せ尾根と岩稜が続く。台高山脈の名前からして穏やかな尾根を想像していたが、御座峠まではほとんど岩稜の縦走でした。岩稜であるが自然林や植林がうっそうと繁って時々樹間から周りの山々が望まれる状態でした。父ヶ谷の高手前の鞍部から東に少し下ったところに雨量測候所があり水場も近くなのでそこでテントを張ることにしました。</p> <p>11月3日 今日は朝から天気が良い。気温も高めでもまだ寒気が入っていないようだ。稜線に戻ると西側が雲海に覆われていて白鬚岳や大峰の山を右手に望みながらの縦走となる。いくつもピークを超えていくのとルートファインディングが難しくなかな距離を稼ぐことができない。道も踏み跡程度で踏み跡がないところもあり稜線通りに歩かないと、ルートから外れてしまう。スマホの地図に助けられたところが何回かあった。御座峠を過ぎると尾根もなだらかになりのんびりと歩けるようになる。大台辻は風の通り道になっているので休憩していると寒さが身にこたえる。休憩もそこそこ今日のテント場へ出発する。テント場は西谷橋の近くの平らな場所を探して張ることにした。ロケーションもよく、風も吹いていなくて気持ちよく過ごせる場所でありました。</p> <p>11月4日 今日は大台ヶ原までなのでバスの出発時間を考えゆっくりと出発する。大台辻まで登り直すと風が強く寒気が入っているようだ。ここから大台ヶ原までは筏場道は昔はたくさんの方が歩いたようですが、今は歩く人が少なく荒れている。この筏場道はHさんが小学生の頃学校から登ったそうでもっと楽に歩けたと記憶に残っているそうです。途中、流れていた金明水を飲んでみると他の湧き水と違いまるやかな口当たりでした。川上辻からはドライブウェイを20分ほど歩くと大台ヶ原に着き、バスの発車まで時間があつたので、物産店やビジターセンターでゆっくりと過ごしました。強風で寒く夕方のニュースを見ると近畿地方に木枯らし1号が吹いたと報道されていました。記:杉本</p>								
連番	924	例会No.	一般615	内容	京都・金毘羅山	実施年月日	2019/11/3	担当者	山倉、西村(晶)
参加者	山倉康次、西村晶、脇本勇二、渡辺健、村木とも子、近藤さとみ、寺島直子、西向美保子、喜多田恵美子、片山純江、佐野雅美、岩本和行							参加者数	12
担当者コメント	<p>三千院や寂光院を有し名高い観光名所大原の西側にある金毘羅山は岩登りのスポットでもあります最近クライマーの姿を見るのはまれです。予定では出町柳駅からバス利用で登山口の戸寺まで行く予定でしたが、さすがに行楽の真ただ中でバスは満員で乗車できず少し費用が増えますがタクシー3台にお世話になり10時によく戸寺につきました、さっそくバス停前の土産物店で買い物など、観光気分です。コースはバス停前から高野川を渡り江文神社へ10:30着、子供たちのグループでにぎわっていました。江文峠で小休止し、急登を約1時間で12:00金毘羅山頂上に着きました。西側から北側の翠黛山をラウンドし14:00寂光院へ下山、紅葉を期待していましたが温暖化のせいかなかまだ時期が早かったようです。記:山倉</p>								
連番	925	例会No.	一般616	内容	京都一周トレイル6・京北前半部	実施年月日	2019/11/10	担当者	板谷、前田
参加者	板谷佳史、前田守、飯尾廣子、喜多田恵美子、大森朋江、片山純江、保木道代、上野あさみ、安岡和子、岩本和行、杉本康夫、佐野雅美							参加者数	12
担当者コメント	<p>京都一周トレイルは東山～北山～西山コースで周回が一旦終わって、周山を一周する京北コースが設定されている。全コース約40Kmあり一回では無理なので二回に分けました。京北は京都市内とはいえ、昔の国割りでいえば丹波国です、市街地の観光地のような華やかさは無いのですが、めったに人とも出会わない静かな京都が味わえます。記:板谷</p>								
連番	926	例会No.	一般617	内容	日下直越道～生駒山歴史探訪シリーズ No. 43	実施年月日	2019/11/17	担当者	小椋(勝)
参加者	小椋勝久、喜多田恵美子、黒澤百合子、安本嘉代、西村美幸、安本昭久、脇本勇二、村木正人、前田守、安岡和子、西村晶、板谷佳史、大森朋江、近藤さとみ、飯尾廣子、佐野雅美、野口秀也、村木とも子、中嶋恵子							参加者数	19
担当者コメント	<p>石切駅で下車し住宅街を北東に向かって谷筋を歩いて行くと日下ハイキングコースと書いた看板が現れる。ここから山道になり登山道としての様相になる。整備された登山道を歩いて行くと石切の地名の由来になった生駒石の石切り場跡が現れる。大阪城の石を切り出したらしい。今では小さくなっているが当時はかなり大規模だったのでは。石切り場からしばらく広葉樹の山道を歩いて行くと舗装道路に出る、少し休んでから歩き始めると右手に大阪平野が一望できる場所が現れる。道路沿いにはトイレなどもありなかなか整備されている。道路から石畳のわき道に入り生駒スカイラインから遊園地の中を通り抜け生駒山の三角点に着くが三角点は遊園地の施設の中で近くでは見ることができない。しかたなく府民の森アジサイ園に向かい昼食をとる。昼食後、歴史探訪ハイキング恒例の講話をする。今回は神武東征の話で五瀬命の話をし、日下直越道の歴史を話し暗峠方面に向かう。多くのハイキングコースに惑わせられながら、暗峠に着く、しばらく見学し下山する。下山途中の枚岡山展望台から見た大阪の町並みは圧巻でした。長い石段を下り枚岡神社で解散の挨拶をし帰途に就く。記:小椋(勝)</p>								
連番	927	例会No.	OP296	内容	兵庫・浜坂三山(観音山、城山、千々見山)+アルファNo.24「カニ料理」	実施年月日	2019/11/23～24	担当者	野原、前田
参加者	野原勇、前田守、喜多田恵美子、和田敬子、西向美保子、中川由紀、上原進一、近藤さとみ、寺島直子							参加者数	9

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

<p>担当者コメント</p>	<p>11月23日 浜坂到着後、駅の待合室で昼食を摂り、将来の伴侶となる花子との出会いの場となる宇都野神社へ向かう。神戸から帰省の折、宇都野神社へ向かった文太郎と本殿石段の途中で赤い鼻緒の切れた下駄を持った少女(10歳位の花子)との運命的な出会い。そのような出来事もありそうな雰囲気のある神社でした。千々見山の登山口は本殿手前左にある踏み跡。ネットで事前に調べていたので直ぐに分かったが表示は一切なし。調べていないと迷うこと必定。浜坂三山のひとつで標高も低く軽く考えていたが、実際は固定ロープに頼る急登が続く想定を遥かに上回るコースだ。木の枝に付けてあるテープが道標となる。千々見山頂上は広く、壊れかけた展望台もある。頂上での休憩後JR諸寄駅に至る踏み跡のコースに入る。ここも所々ロープにつかまりながらの緊張感が続くコース。諸寄駅のたたずまいに昭和のレトロを感じました。諸寄駅から少し歩くと諸寄漁港。ここ諸寄は「東の啄木、西の翠溪(前田純孝)」と呼ばれた薄幸の歌人前田純孝の故郷。天を突くような形状の純孝の歌碑を見た後、城山へ向かう。城山へはうねうねした九十九折の道。途中の城山園地展望台からは諸寄の集落と漁港が眼下に広がる。城山頂上に立つと前方に日本海、右に目を転ずれば浜坂漁港、そして明日登る観音山もハッキリ見える。頂上からの展望を楽しんだ後、矢ヶ鼻灯台まで平坦な遊歩道を歩く。灯台到着は夕日が山に入った直後、天気が良すぎて雲が無く夕焼けはまったく期待外れだったが気分は最高。本日の踏破目標を達成しルンルン気分が浜坂漁港へ下る。夕闇迫る中、今夜の宿「浜坂温泉保養荘」に到着予定時間の電話を入ると車で迎えに来てくれました。宿で温泉に入った後、大広間で今回例会のハイライト「カニ料理のフルコース」を十二分に味わい尽くしました。</p> <p>11/24(日) 例会前の予想に反して今日も晴天。ゆっくりと朝風呂に入り朝食後出発。当初の予定を変更し相応峰寺から続く参詣道に沿って登ることにしました。1丁目から始まって10丁目が奥の院「円通殿」、頂上は裏手を少し上がった所にある。ここも展望良好。浜坂漁港を眼下に昨日登った千々見山、城山も一望。ゆっくりと休憩の後、南東に続く尾根を下る予定だったが、コースの入口が分からない。少し下りても発見できず。来た道をそのまま下りるのも能がないと思いトロッコのレール沿いに降りることにしました。しかし、途中で思いの他の急降下コースであることが判明。引き返すことも考えましたが、このコースを引き返すのも大変、安全面では問題がないこともあり、そのまま降下を続け登山口の相応峰寺へ。私の判断ミスでメンバーには苦勞を掛けました。帰宅後、改めて下山口を調べると円通殿の直ぐ先にあつたようです。通過した際の記憶を辿ると、朽ち果てる寸前の判読不能の指示板がありました。そこでの確認作業不足でした。その後、浜坂の町を歩き「加藤文太郎の墓」へ。現在この墓は発見困難な状況になっています。以前立っていた標柱がすべて無くなっており、数百の墓石が並ぶ「墓石の海」の中をメンバー全員で探し回りましたが発見できない。墓地の中で作業をしていた地元の人に聞いて大体の場所は分かったがそれでも発見できず。教えてくれた人も交えて探すも分からない。そこにたまたま通りがかれたお年寄りに案内してもらってやっと分かりました。加藤文太郎の命日は昭和11年1月6日となっていますが、この日は妻花子の夢枕に「花子さん、いま帰ったよ」と夫が立った日とのことで決められたようです。吹雪の北鎌尾根に倒れて、魂は愛する妻と子の元に帰ってきたということでしょうか。墓参後、加藤文太郎記念図書館へ。加藤文太郎の遺品や新聞記事などを見て帰路に着きました。 記:野原</p>
<p>連番</p>	<p>928 例会No. 一般618 内容 播磨・五峰山、角尾山 実施年月日 2019/11/24 担当者 杉本、山倉</p>
<p>参加者</p>	<p>杉本康夫、山倉康次、板谷佳史、三原秀元、脇本勇二、大森朋江 参加者数 6</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>五峰山は昔から播磨高野といわれ真言宗観音霊場として広く信仰を集めています。太平記のふるさと「光明寺合戦」の案内板横の急坂を登ると光明寺と彫られた境内石門が建っている。本堂の紅葉は今が盛りで鮮やかな紅色に染まっています。ここから20分ほどで扇山(五峰山)に到着。藪のなかの山頂で展望は全くなし。休憩後地図上にはルートの破線はないが疎林で歩きやすいのでそのまま稜線上を北西に進む。峠まで降りると角尾山までは稜線伝いになる。標高が低いながらも小さなピークが6つもあり変化に富んで楽しい。私たちの下山予定の引尾山への分岐には「イノシシの被害が大きく立ち入り禁止」の標識が行く手を遮っている。角尾山頂はこのルート上唯一展望の良いところです。ここで出会った女性のパーティーによると引尾山から八王子池のルートは池に出るところのゲートが開かないので少し上部から東に降りるルートがあると教えてもらう。教えられたとおりに行くと会社のフェンスに突き当たりフェンス沿いに歩いて行くと車道に出た。そこからは稲刈りが終わったのどかな田圃の横を滝駅までのんびりと楽しく歩きました。 記:杉本</p>
<p>連番</p>	<p>929 例会No. 一般619 内容 六甲・菊水山～鍋蓋山～七三峠 実施年月日 2019/12/1 担当者 前田、板谷</p>
<p>参加者</p>	<p>前田守、板谷佳史、佐野雅美、寺島直子、保木道代、上野あさみ、大森朋江、馬場美穂子、近藤さとみ、脇本勇二、峯岡宣重、翁長和幸、北山かな、安本昭久、安本嘉代 参加者数 15</p>
<p>担当者コメント</p>	<p>神鉄鶴越駅で降りて、廃止になった菊水山駅迄水平な道に行く。ここから菊水山の急登を登る。階段が歩幅に合わずしんどい。汗が出てくるが、吹く風が冷たくて心地よい。菊水山に着く。表側は神戸の街と大阪湾が、裏側はマッチ箱を並べたような鈴蘭台の団地が広がっていた。そこから一気に下って、又急登の鍋蓋山を登る。遠くから船の汽笛が『ポー』と聞こえてくる。鍋蓋山で昼食。12月に入ったが小春日和で暖かい。そこを少し下って七三峠へ。ここは隠れ紅葉のスポット、人も少なく紅葉したもみじが見頃だった。登り返し大竜寺へ。全山縦走路は人気があるのか行きかう人が多い。大竜寺を過ぎたあたり、もみじの木が多く、綺麗に紅葉していた。逆光でもみじを見ると更に綺麗に見える。ちょうど紅葉の山行となり良かった。その後、市ヶ原(ここももみじが綺麗でした)から新神戸へ下った。 記:前田</p>
<p>連番</p>	<p>930 例会No. 一般620 内容 六甲・石楠花谷～長峰山 実施年月日 2019/12/8 担当者 大石、山倉</p>
<p>参加者</p>	<p>大石隆生、山倉康次、翁長和幸、脇本勇二、板谷佳史、和田敬子、西向美保子、保木道代、大森朋江、北山かな、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子 参加者数 13</p>

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

担当者コメント	紅葉の名残が見られる初冬の登山道を、落葉を踏みしめ、時にはかき分けながら歩きました。石楠花谷は下部に滝やナメがあつて谷通しで登ることができて面白そうだが、過去の報告では滑りやすいとあるので忠実に登山道を辿っていく。秋の名残を眺めながら谷を詰めるうちに地獄谷西尾根に突き上げる枝谷との出合に着く。ここからは谷通しで、滑りそうな外傾した岩に積もった落ち葉を払いのけ、急斜面に張られたロープを掴んで西尾根の登山道へと這い上がる。ダイヤモンドポイントで灰色の空の下の須磨・播但方面を眺め、別荘地を通り抜け車道を進んで杣谷峠へ。長峰山からは長峰尾根を下る予定であったが、「登山道を下り切った辺りで崩壊により通行止めとなっている」との注意書きがあつたので、長峰尾根の谷を挟んだ西側の尾根の関電点検路に変更。落葉が厚く積もった急な登山道を滑らないよう注意しながら下り、市街地を六甲駅へと向かい解散とした。記:大石									
連番	931	例会No.	一般621	内容	京都一周トレイル7・京北後半部	実施年月日	2019/12/14	担当者	板谷、杉本	
参加者	板谷佳史、杉本康夫、脇本勇二、佐野雅美、喜多田恵美子、前田守、大森朋江、飯尾廣子、上野あさみ、安岡和子							参加者数	10	
担当者コメント	前回は引き続き周山を巡る西側の里山を巡るコースです。コース設定は前回の終了点である常照皇寺から井戸峠を越えて弓削に至っているのですが、車道歩き部分が多く帰りのバス時刻の都合もあり少々省略して弓削までバスに乗り、途中一部省略してコースに合流することになりました。周山周辺、今は京都府京北市となっていますが、昔の国名は丹波であり、明智光秀ゆかりの地、展望地からは西や北に丹波の山々が広がります。2018年2月から約2年をかけて7回にわたって実施してきた京都一周トレイルが完成しました。とりたてて山岳らしい部分はありませんが古都の名所旧跡を通過したり、懐かしい農村風景を巡ったりのコース、又その時々四季の移ろいを感じる例会でもありました。同時に京都市街を取巻く地形や自然への理解が深まったりもしました。予定のコースをこなす為、例会中気になる名所旧跡などにはゆっくり立ち寄ることができませんでした、改めてそこだけを目当てに出かけるのも良いかもしれません。記:板谷									
連番	932	例会No.	一般622	内容	高野七口・京大坂道～高野三山(転軸山・楊柳山・摩尼山)「近畿の山リレー登山No.8」	実施年月日	2019/12/22	担当者	杉本、西村(晶)	
参加者	杉本康夫、西村晶、板谷佳史、佐野雅美、安岡和子、保木道代、前田守、喜多田恵美子、片山純江、大森朋江、上野あさみ							参加者数	11	
担当者コメント	高野七口と呼ばれていた高野山に入る参詣道は、今はほとんどが舗装された道になっていて登るには興味半減です。その中で京大坂道のうち舗装されていない極楽橋から不動坂口女人道へを登ることになりました。南海電鉄の極楽橋駅を出てすぐに赤い橋の極楽橋が現れる。橋のもとにはお地藏様が編み笠をかぶせてもらい旅人の安全を見守っておられるようです。しばらく登るといろは坂に着く。ここは「四十八曲がり」とも呼ばれ高野山に向かう参拝者の前に立ちはだかる最大の難所であったそうです。いろは坂を過ぎた頃からは足下から谷底までの急斜面になり罪人を突き落としたと言われる「八丈転かし」はこのあたり一体がそうかなと思える。黒河口女人堂跡からは高野町の町中歩きです。転軸山への取り付けから山道になり三山とも標高差200mほどの登り下り、それぞれ20分ほどで楽しく歩けるコースであります。午後から雪の予報が出ていましたが摩尼山頂で少しパラついたものの雨具もいらず三山を回り終えました。最後に弘法大師御廟にお参りをし解散としました。記:杉本									
連番	933	例会No.	一般623	内容	岩湧山	実施年月日	2019/12/29	担当者	西村(晶)、板谷	
参加者	西村晶、板谷佳史、上野あさみ、佐野雅美、安本昭久、脇本勇二、保木道代、前田守、喜多田恵美子、片山純江、安岡和子、安本嘉代、黒澤百合子、北山かな、川崎喜美子							参加者数	15	
担当者コメント	車道を少し歩いて登山口に着きました、外気温は2℃となっており、少し身体があつたまってから防寒着を脱ぐことにしました。カキザコに着くと日差しを受けて暖くなり上着を一枚脱ぎました。冷たい風もなくて12月にしては穏やかです。暖かい日差しを受けながら落ち葉に覆われた山道を登り詰めると稜線に出ます。岩湧山頂上からの展望は見晴らしの良いところですが、今日は空気が澄んでいるのか、大阪湾沿いに眺めると明石大橋も見渡せ、大峰山方面もくっきりとシルエットが浮かび上がり、八経ヶ岳、弥山方面と山上ヶ岳、大普賢岳周辺のゴツゴツとした稜線が見渡せました。雪の岩湧山を少し期待をしていましたが、雪はありませんでした。記:西村(晶)									
連番	934	例会No.	一般624	内容	新年登山 三石山	実施年月日	2020/1/12	担当者	野原、前田	
参加者	飯尾廣子、磯辺秀雄、板谷佳史、岩本和行、上原進一、大森朋江、上野あさみ、小椋勝久、翁長和幸、片山純江、喜多田恵美子、黒澤百合子、近藤さとみ、中川由紀、西向美保子、西村晶、西村美幸、野原勇、馬場美穂子、保木道代、堀木宣夫、本田和史、前田守、梶田誠寛、松田芳治、實操綾子、峯岡宣重、三原秀元、村木正人、村木とも子、安岡和子、安本嘉代、安本昭久、山倉康次、山下登志子、脇本勇二							参加者数	36	
担当者コメント	今年の正月の山には雪がない。前日の琵琶湖周辺の山々にも雪がなく晩秋の山状態。琵琶湖周辺がこのような状況であれば、大阪南部の山は雪のかけらもないと確信しました。9年ぶりに新年会が「紀伊見荘」に戻ってきました。それに伴い新年ハイキングも紀伊見峠周辺限定という条件が付き「三石山」に決定。三石山頂上は2009年の新年ハイキング以来11年ぶり。当時の記録を見ると参加者は52名、雪に覆われた山道を歩いています。御幸辻駅にて新年の挨拶を交わし、ハイキングスタート。36名の大部隊、賑やかな女性陣の声が絶えまなく続きます。登山道は大量の落ち葉で絨毯状態。ふと昨年11月の浜坂三山例会で見た前田純孝の歌碑に刻まれた「いくとせの前の落ち葉の上にまた落ち葉かさなり落ち葉かさなる」が思い浮かびました。途中適度に休みながらトップは正午前に三石山頂到着。昼食大休止とする。最後尾の登頂はトップと40分近く差が付きましたが、89歳目前で738mの頂を目指す大先輩の山に対する真摯な姿勢に我々も負けていけないという思いになりました。頂上から横尾辻までやや急な下り坂。横尾辻からは変化のない単調な車道歩きを経て新年会の行われる「紀伊見荘」に到着。記:野原									

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

連番	935	例会No.		内容	2020年新年会・紀伊見荘	実施年月日	2020/1/12	担当者	小椋(勝)、前田、杉本、野原、大石	
参加者	青木義雄、秋田文雄、飯尾廣子、井倉和代、磯辺秀雄、板谷佳史、岩本和行、上原進一、大石隆生、大森朋江、上野あさみ、小椋勝久、小椋美佐、翁長和幸、片山純江、河合幸夫、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、喜多田恵美子、樺田克彦、黒澤百合子、近藤さとみ、杉本康夫、中川由紀、西向美保子、西村晶、西村美幸、野口秀也、野原勇、馬場美穂子、保木道代、堀木宣夫、本田和史、前田守、榊田誠寛、松田芳治、實操綾子、峯岡宣重、三原秀元、村木正人、村木とも子、森本善博、安岡和子、安本嘉代、安本昭久、山倉康次、山倉妻、山倉子、山下登志子、山栴初好、脇本勇二								参加者数	51
担当者コメント	厳しい冬らしい日が無いまま新年を迎え、暖かなハイキングでした。体力的事情などから日ごろ例会から遠ざかっておられる方々とも久しぶりに顔を合わせることができる機会ですが、山道の途中や会場の待ち時間にお話ししてもあつという間に過ぎてしまいました。昨年は泉州山岳会の合同慰霊碑建立活動にEPEクラブの方々も巻き込みました。大方の会員の方々にとっては山岳会の遭難事故とは直接には関わりの無いことにも関わらず大変ご協力を賜りました。改めて感謝の一年でした。本年も引き続き慰霊碑の除幕式、山岳会の創立80周年記念式典と行事が続き多忙な一年となりそうです。EPEの例会にも多数の参加者を集めるべく各リーダー企画に頭を絞っています。更に創立80周年記念としてEPE主催のリレー登山も続けます。クラブ会員の方々の更なるご支援をお願いする次第です。 記:板谷									
連番	936	例会No.	OP298	内容	第18回スキーカーニバル・イン北海道 ルスツスキー場	実施年月日	2020/1/19~23	担当者	大石、岡部	
参加者	大石隆生、岡部一郎、岩垣寿治								参加者数	3
担当者コメント	ルスツスキー場の滑ることができるコースは全て滑りたいと思い、現地3日の行程を組みました。そのせいか、それとも他の理由によるものか参加者が極端に少なくなりましたが、その分待ち時間が少なく多くのコースを滑ることができました。初日の午前中はウエストエリアで先シーズンの勘を取り戻そうと足慣らし。午後はイゾラ、イーストエリアへ。こちらはウエストエリアと違って、尾根筋を滑る、又は尾根から谷筋へと滑るコースで快適なダウンヒルでした。2日目、3日目はイゾラ、イーストエリアで終日楽しみました。このスキー場は場内の樹林帯がバックカントリーエリアとして開放されており、スキーヤーやボーダーが滑っているのをよく見かけました。嘗ては山スキーで樹林帯を滑っていたことが懐かしくて少しだけ挑戦してみましたが、O氏以外は悪戦苦闘。圧雪されたコースだけを滑っているようではダメですね~という感じでした。 記:大石									
連番	937	例会No.	OP299	内容	生駒山地縦走「近畿の山リレー登山No.9」	実施年月日	2020/1/25~26	担当者	山倉、森本	
参加者	山倉康次、森本善博、保木道代、喜多田恵美子、脇本勇二、板谷佳史、大森朋江、黒澤百合子、前田守、三原秀元								参加者数	10
担当者コメント	1月25日 8時、私市駅から国道168号を横切り天の川に沿ってほしだ園地に入り、ピトンの小屋で8:40小休止、ここには大きなクライミングウォールがあります。ここから星のブランコと呼ばれるつり橋へ急登し9:05高さ50m長さ280mのつり橋を渡り林の中を飯盛園地に入ります。園内の道路を通り国道163号を横切ると一旦住宅地を通過し再び山道に入り堂尾池から室池園地に入りますが入口の瓢箪池に架かる木橋が通行止めです。回路を行きますが間違いかけて釣り人に助けをいただきました。室池までの道は湿地の木道を通ります、春夏には湿生植物が多く見られるようです、コースは室池を横切るように作られた中堤防を渡り森の中を通り阪奈道路へ出ます。歩道橋で道路を渡り管理道路状の舗装道路からくさか園地へ、さらに暗峠へ続く道路を横切りなるかわ園地に入り今日の宿泊予定のバンガローを目指して管理道路を歩きます。管理道路は縦走路から西側の山肌を大きく迂回しているため泊地まで結構長く感じました、後で思うと縦走路を行ったほうが時間短縮できたようです。16:30ようやく今日の泊地のログハウスに到着しビールで乾杯しました。 1月26日 雨が心配でしたが夜明け前には曇天ですが雨は上がっています、7:45管理事務所でチェックアウトの手続きを済ませ生駒スカイライン沿いの縦走路に出ます。ここからはほとんどスカイライン沿いの山道を歩き鐘の鳴る展望台で8:15小休止、奈良県側に展望がきくところ。道路沿いの十三峠を過ぎるとスカイラインから離れ林の中をて高安山を目指します、気象レーダーを通過しケーブル高安山駅を過ぎるあたりから生駒縦走歩道から離れます。道は墓地や霊園のふちを歩き、柏原市の斎場あたりでアスファルトの道路に出ます、ここからはひたすら道路をJR高井田駅へ下ってゆきますが、途中の道標に近鉄安堂駅のほうが近く表示されていたのでそちらに下ることとし、12:30安堂駅に到着し解散としました。 記:山倉									
連番	938	例会No.	一般626	内容	京都・大原三山(金毘羅山・翠黛山・焼杉山)	実施年月日	2020/1/26	担当者	杉本、野原	
参加者	杉本康夫、野原勇、寺島直子、安岡和子								参加者数	4
担当者コメント	大原近郊には地元の協会で命名された「大原の里10名山」があるようです。今回は大原を取り囲む3山を登ってみました。今年は暖冬で雪の大原の風情がなく今回のルートもどこを探しても雪がなく春の山のように残念でした。予報では近畿の中南部は雨でしたが大原付近は曇りのようであったので予定通り決行しました。戸寺バス停付近からしばらくは以前に例会で実施された京都トレイルを歩く。江文神社への道で京都トレイルから分かれて金毘羅山を目指す。琴平新宮からは尾根もだんだん細くなりロッククライミング場の尾根上を歩いているような感じです。金毘羅山頂上は安心して休憩できる広さがある。この標識は面白く今登ってきた金比羅宮からの道は「登山道」で静原に降りる道が「山道」と表示されている。翠黛山へは少し緊張するぐらいの急斜面の下りがしばらく続くが、後は緩傾斜の道になり頂上に着く。焼杉山からの下りでは強風の影響かあちこちに大木が倒れていていまだにその痕跡が残っていて倒木の間をくぐったり、またいだりしてルートを探しながら下っていく。古知谷方面の分岐から大原に直接下るルートを取り約1時間半で大原バス停に到着し解散としました。 記:杉本									
連番	939	例会No.	一般627	内容	(ベーシック登山No.54)比良・折立山 ビバーク講習	実施年月日	2020/2/2	担当者	野原、板谷	

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

参加者	野原勇、板谷佳史、安岡和子、保木道代、大森朋江、上野あさみ、寺島直子						参加者数	7	
担当者コメント	<p>例年なら一番積雪があるこの時期の比良山に雪がまったくない。そのためか担当者が一言も言っていないのに中止の噂が独り歩きする始末。参加するかもと見込まれるメンバー10名あまりに急遽声かけをし、結果として5名のメンバーが参加することになりました。声かけしていないメンバーの問合せや参加も期待しましたが一切なし。正直残念でした。雪のない新年ハイキング後、1月下旬頃までの大寒波の襲来、積雪を期待しましたが雪がまったく降らない。2年前の1月末にラッセル体験をやった同じ山が、今回は実施3日前午前中の時点で雪の存在がまったく感じられないほど。今回講習の目玉と考えていた雪洞ビバーク体験断念に追い込まれました。雪のまったくない冬山？を覚悟しましたが3日前昼過ぎから小雪が舞い始め翌朝は比良山の上部が白く雪化粧。雪洞は無理でも冬山の雰囲気だけでも感じられるのではないかと淡い期待を持った次第。平のバス停から権現山登山口へ。2年前のEPEクラブのHPを見て貰えば分かりますが、2年前は雪がたっぷりありました。その時の状況とは様変わりです。そのまま雪のない登山道を登っていくとアラキ峠手前からやっとな雪道らしくなってきましたが、積雪が深い所でも3cm程度。呆れてしまうほどこの時期としては異常な少なさ。アラキ峠まで登山口から30分。アラキ峠から折立山頂上まで10分あまりで到着。地形図にも山名表記のない盲腸のような山に登ってくるもの好きはおらず我々だけで頂上を独占して講習開始。先ずツェルト講習、リーダーのツェルトだけでなくメンバー各自の持ってきたツェルトを含め計4張、自分一人でも張れるよう1時間以上かけて徹底して体験してもらいました。ツェルトに限りませんが持っているだけでは宝の持ち腐れです。その後「着の身着のまま」でのビバーク。心肺蘇生もお互いのミスに大笑いしながらも真剣に時間をかけて体験してもらいました。その他、北海道警察山岳遭難救助隊の取り入れている「低体温症ラッピング」も体験、現場で実施可能な最強の対策とされています。また山での雷対策、止血方法、ザック搬送等々。最後の方はややバタバタしましたが無事講習を終えることが出来ました。私は担当する例会でこのような講習会を年に1回程度実施しています。その理由は「自分は遭難しない」「遭難するような山に登らないから大丈夫」「しっかりしたリーダーが付いているから大丈夫」というのは妄想、幻想、錯覚、寝言、戯言でしかないと泉州山岳会に入会するまでの経験から自覚しているからです。登山は山の大小遠近に関わらず、どんな山でもリスクを背負って登っていることをメンバーと共有したいと思っています。対処する知識も経験もなく突然危機に直面しても手遅れです。甘い考えは危険ですよ。 記:野原</p>								
連番	940	例会No.	一般628	内容	呉枯ノ峰(533m)「近畿の山リレー登山No.10」	実施年月日	2020/2/9	担当者	杉本、小椋(勝)
参加者	杉本康夫、小椋勝久、保木道代、西村美幸、上野あさみ、大森朋江、村木とも子、佐野雅美、板谷佳史、村浪義光						参加者数	10	
担当者コメント	<p>今年は暖かい日が続き雪を見る機会がなく、「湖北の豪雪地帯」と言われるこのあたりである程度の積雪を期待していたが木ノ本駅でも雪が全くない状態です。2日前に近畿地方にも寒波がきていたが残念です。かろうじて呉枯ノ峰山頂で約2cm積もっているだけであります。おかげで登山靴とスパッツは泥だらけ。木ノ本駅で敦賀市在住のMさんが待っておられ久しぶりにお会い出来一緒に出来るのが嬉しく思いました。駅から町中を抜けて意富布良神社の境内から田上山を目指して登りはじめ。田上山頂の今は樹林に覆われてあまり眺望がないが、当時は琵琶湖などが見渡せたらと思うと天然の要塞として砦を作ったのもうなずける。田上山分岐では吹きだまり状態になっているがそれでもくるぶし下位の雪で、この付近が今回一番の積雪であった。呉枯ノ峰からは琵琶湖が綺麗と言われていたが樹木で眺望がなく、雪もなく拍子抜けの感じで下山する。3時間の山行の最後に眼の地蔵様として親しまれている立派な木ノ本地蔵院にお参りをして早々と駅に到着し解散としました。 記:杉本</p>								
連番	941	例会No.	OP300	内容	ダイヤモンドトレール縦走(二上山～紀見峠駅)「近畿の山リレー登山No.11」	実施年月日	2020/2/15～16	担当者	山倉、大石
参加者	山倉康次、大石隆生、大森朋江、前田守、喜多田恵美子、北山かな、村木とも子、佐野雅美、飯尾廣子、和田敬子、西向美保子、脇本勇二						参加者数	12	
担当者コメント	<p>先月の生駒山地縦走の継続で、ダイヤモンドトレールを2日間で紀見峠駅までの縦走を計画しましたが、この時期には暖かい雨に完走を阻まれ、水越峠で中断せざるを得ませんでした。2月15日8:00 二上神社口駅を下車、周辺は薄い霧がかかり生暖かく感じられます、二上山中腹では、早くも汗が吹き出します、9:20雄岳着、奈良盆地は雲海の下です。雨こそありませんが展望は聞きません、雌岳から岩屋峠への下りも滑りやすくなっていました、岩屋峠を含めて四つの峠と岩橋山他小さい頂を数か所超えて葛城山を目指しますが、丸太階段と滑りやすくなった下りには少々閉口させられます。葛城山にもう一息のところで、これ最期の階段かな～、いやまだありませ、そんな会話を繰り返し頂上へ続く草原に出ました、15:10葛城山着、ほぼ予定とおりのコースタイムで今日の宿泊地(葛城高原ロッジ)に到着しました。入浴後、ビールで乾杯し鴨鍋を堪能しました。2月16日 夜半から風雨が強くなっているようです、朝食を済ませ8時半ごろにロッジ発、雨は小康状態ですが生暖かい強風と滑りやすい下りにピッチは上がりません、水越峠付近ではまた雨が降り出しましたので、この先足元を取られて時間がかかると予測されましたので9時30分ごろ水越峠で山行を打ち切り下山することにしました。 記:山倉</p>								
連番	942	例会No.	一般629	内容	天神岳～茗荷谷山～黒谷山 歴史探訪シリーズNo. 44	実施年月日	2020/2/16	担当者	小椋(勝)、紀伊埜本(節)
参加者							参加者数		
担当者コメント	雨天中止								
連番	943	例会No.	OP301	内容	東北スキー場巡り・その12 雫石スキー場	実施年月日	2020/2/23～26	担当者	大石、板谷
参加者	大石隆生、板谷佳史、岩垣寿治、岡部一郎						参加者数	4	

2020年度('19/11～'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

担当者コメント	冬型の気圧配置になればパウダーを滑れるかもと少しは期待していたのですが、3月中、下旬のような暖かさでそうはいきませんでした。滞在中の降雪も薄らと積もる程度で、2日目の夜には雨が降りゲレンデの状態はイマイチでした。暖冬が恨めしいところですよ。そんな状態でも迷いなく滑りに行くのが我々で、午前8時半を過ぎれば毎日ゲレンデに出ていました。ロープウェイとリフト2本を乗り継いでゲレンデの最上部に着き、岩手山を横目に尾根筋のコースを下り、練習のためのボールがセットされた斜面を思い思いに滑ったりとスキーを楽しみました。記:大石								
連番	944	例会No.	一般630	内容	雲山峰～飯盛山	実施年月日	2020/3/1	担当者	小椋(勝)、西村(晶)
参加者	小椋勝久、西村晶、大森朋江、佐野雅美、西向美保子、村木正人、村木とも子、飯尾廣子、翁長和幸、西村美幸、黒澤百合子、安岡和子、和田敬子、前田守、板谷佳史、飛田典男、川守田康行							参加者数	17
担当者コメント	前日の雨も上がり天気予報では晴ということでしたがあいにくの曇り空、午後から晴れるだろうと歩き始めるが、朝までの雨で足元が悪い登山道でのロングトレイルになるだろうと考える。最初の急登を登り展望台で一休み。ここからは少しピッチを上げて歩きだす。尾根道は思ったほど悪くはなく時間通りに進む、雲山峰を経由し井関峠に到着、短い休憩を取り先へ進む、西の籤法ヶ岳で昼食を取り大福山へ向かう。昼食中にO氏が居ないことに気づく、少し離れて歩いていたので籤法ヶ岳をトラバースして進んだらしくその後合流したが人数での行動時の反省点が残された。大福山から札立山を通過し飯盛山へ到着する。あとはみさき公園駅まで向かうだけだ。疲れた重い足を奮起させ飯盛山からの長い下りを降り住宅街を抜け駅へ着ました。駅で解散し帰途へと着く。約21Km、8時間の行程を皆さんよく頑張りました。記:小椋(勝)								
連番	945	例会No.	一般631	内容	西光寺山、加東神山	実施年月日	2020/3/8	担当者	杉本、山倉
参加者								参加者数	
担当者コメント	雨天中止								
連番	946	例会No.	一般632	内容	鶏冠山～竜王山	実施年月日	2020/3/15	担当者	翁長、前田
参加者	翁長和幸、前田守、安本昭久、安本嘉代、寺島直子、笠松マサエ、保木道代、安岡和子、飯尾廣子、脇本勇二、村木正人、村木とも子、大森朋江、佐野雅美							参加者数	14
担当者コメント	今日の見どころは2つありました。1つは個性豊かな巨岩、奇岩にあります。中でも大岩が積み重なった天狗岩は圧巻である。そのトップからの眺めは中々のものがあります。琵琶湖やその向こうにある比叡山、比良山が見渡せるのです。また、岩の端に立つクライミングの終了点にいるような高度感も味わえるのです。リングボルトが1本打込まれていました。竜王山の人気は、ここ天狗岩にあるのかもと思った。もう1つの興味は磨崖仏にあります。ここ竜王山では、奈良時代から鎌倉時代の渡来人が、作ったという狛坂磨崖仏が有名ですが、興味をひいたのは鎌倉初期の作と言われている、さかさ観音。磨崖仏の観音様が逆さまになっているのである。説明板には明治の中ごろ、磨崖仏の下流に堰堤工事があった。そこでの石材が不足し、この大岩の一部を利用した。その時、転倒し逆さまになったと書かれている。磨崖仏を信仰していた当時の人々にとっては怒髪天を衝くような出来事だったに違いない。興味深いのはなぜ元の姿に戻さず、逆さまにしておいたのかという事である。不思議な思いが残った。記:翁長								
連番	947	例会No.	OP302	内容	鈴鹿・霊仙山西南尾根～柏原道「近畿の山リレー登山No.12」	実施年月日	2020/3/21～22	担当者	板谷
参加者	板谷佳史、村木とも子、大森朋江、脇本勇二、安岡和子、山倉康次、保木道代							参加者数	7
担当者コメント	積雪を期待して計画しましたが、全く無し。雪が消えた後に咲くフクジュソウの最盛期に出会えたのはラッキーでした。念のためのアイゼンもお荷物に過ぎませんでした。雪が期待できないので調理用水も各自1.5リットル以上、荷が重い分登りもスローペースでしたが、小屋泊の強みで全く急がない。連休中でしかも絶好の天気とあって登山口には駐車しきれないほどの車が殺到していました。多くの登山者で賑わっていましたが、夕刻には山頂周辺は無人となりました。避難小屋泊は他に単独登山者が1名のみ。琵琶湖の向こうに沈む真っ赤な夕日を眺めた後、早々に就寝です。夜中はずっと強風が吹いていたのでやはり避難小屋はありがたい。翌日は少し雲が多い天気期待した朝日は見られなかった。柏原道は霊仙の古典ルートというべき長いコースだが、下りばかりなのでコースタイムどおり5時間弱で駅に着いてしまった、予定より早い列車に乗れて帰阪できました。記:板谷								
連番	948	例会No.	一般633	内容	ポンポン山～嵐山「近畿の山リレー登山No.13」	実施年月日	2020/3/22	担当者	野原、杉本
参加者	野原勇、杉本康夫、三原秀元、西村晶、黒澤百合子、喜多田恵美子、實操綾子、佐野雅美、前田守							参加者数	9

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

現在、JR高槻駅から登山口に向かうバスから見る風景には驚かされます。一昨年台風被害で数百本の木々がなぎ倒されている場所があり、あまりの変わりように目が釘付けになりました。また、出灰バス停から登山口に向かう車道にもロープが張ってあり「歩行者も含めて通行禁止」の看板。道路状況を見るため進入すると20m程度が土砂でふさがれていました。その土砂の山を乗り越えると後は問題なく登山口の鬼語条橋到着。ポンポン山への最短ルートだけあって途中まで急登が続きます。頂上で休憩していると、ポンポン山は昔から人気の山だけあって登ってくる人が絶えない。休憩後、コースは釈迦岳分岐まで平坦な山道、分岐から急な下降路を経て杉谷到着。その後は緩やかなアップダウンで金蔵寺到着、以降終点嵐山まで舗装道路歩き主体となる。勝持寺(花の寺)山門で昼食大休止。その後、沓掛まで京都縦貫自動車道沿いを進み市街地へ。整備された住宅地の中の遊歩道や竹林を経て地蔵院(竹の寺)、鈴虫寺、月読神社、松尾大社から終点「阪急嵐山駅」に小雨の降る中到着、解散としました。途中の寺は時間がなく全て素通りでしたが、椿やカタバミ、満開の桜など春の息吹を感じながらの歩きでした。今回は山道よりも住宅街等の舗装路歩き主体の例会でしたが楽しめたでしょうか。今回この計画を考えたきっかけは勿論「近畿の山リレー登山」ですが、良し悪しは別にして多くの登山者に広まっているGPSに頼り切った登山も試したいという思いもありました。今回のコースは山岳地帯が30%程度、残り70%は市街地(住宅地)で、私にとって85%は初見コースです。その結果、山岳地帯は地形図をメインにすべきという考えは変わりませんが、迷路のような市街地(住宅地)は地形図が最も苦手とする場所です。GPSなら事前にしっかりと「ルート作成」をしておけば、途中の案内板や道標をまったく頼らなくても歩けることを認識しました。途中2ヶ所で10m程度コースを外れましたが、それは思い込みによるミス。逆説的に言えば間違っても10m程度のミスで済むということです。こんな僅かな距離でミスに気づくことは、地形図ではほぼあり得ません。GPS最大の問題点はバッテリー問題です。今回ゴール直前でバッテリーが切れてしまいました。バッテリー切れの原因はスマホを「機内モード」にしていなかった私にありましたが、バッテリー切れしたGPSは何の役にも立たない「お荷物」です。GPSがガーミン等の専用機でなくスマホのアプリであれば、それは緊急時における連絡手段も失うということ意味します。もうひとつGPSの問題点は小さな画面では広い視野でコース全体を読み取れない点です。地形図なら終始コース全体を読むことが自然に身に付いています。地形図を読みこなすには長い時間と絶えまない努力を必要としますが、GPSを使いこなせばその時間と努力を短縮できることがハッキリと認識できました。遭難原因の22%は道迷いです。私自身への自戒を含め、少々頭の固くなったEPEクラブメンバーに遭難防止のためにも積極的にGPS利用を広げていきたいと思った例会でした。 記:野原

連番	949	例会No.	一般634	内容	ベーシック登山No. 55 和泉山脈・奥山雨山自然公園西・東ハイキングコース	実施年月日	2020/3/29	担当者	翁長、紀伊楚本(節)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	950	例会No.	一般635	内容	ベーシック登山No. 56 湖北・東山	実施年月日	2020/4/5	担当者	小椋(勝)、杉本	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	951	例会No.	OP303	内容	京都出町柳駅～嵐山駅「近畿の山リレー登山No.14」	実施年月日	2020/4/5	担当者	山倉、森本	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	952	例会No.	OP304	内容	和泉山脈・大川峠～紀淡海峡	実施年月日	2020/4/12	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	953	例会No.	OP305	内容	台高・池木屋山「近畿の山リレー登山No.15」	実施年月日	2020/4/18～19	担当者	杉本、板谷	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	954	例会No.	一般636	内容	大和葛城山	実施年月日	2020/4/19	担当者	西村(晶)、森本	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	955	例会No.	一般637	内容	奥立岩から岩湧山	実施年月日	2020/4/26	担当者	板谷、前田	
参加者									参加者数	
担当者コメント	コロナ禍中止									
連番	956	例会No.	一般638	内容	高槻駅～交野山～私市駅「近畿の山リレー登山No.16」	実施年月日	2020/4/29	担当者	山倉、板谷	
参加者									参加者数	

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	957	例会No.	OP300	内容	加賀白山	実施年月日	2020/5/2~4	担当者	山倉、森本	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	958	例会No.	一般639	内容	ベーシック登山No. 57 湖北・横山~鳥羽上山	実施年月日	2020/5/3	担当者	野原、前田	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	959	例会No.	OP307	内容	福井県・横山岳	実施年月日	2020/5/7~8	担当者	西村(晶)、板谷	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	960	例会No.	OP308	内容	鈴鹿山脈縦走(入道ヶ岳~釈迦が岳)「近畿の山リレー登山No.17」	実施年月日	2020/5/29~31	担当者	前田、杉本	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	961	例会No.	一般640	内容	六甲・有馬 深戸谷~有馬三山	実施年月日	2020/5/31	担当者	大石、板谷	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	962	例会No.	OP309	内容	白岡・高見山~二峰山~宇能堂山「近畿の山リレー登山No.18」	実施年月日	2020/6/5~7	担当者	杉本、板谷	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	963	例会No.	一般641	内容	ベーシック登山No. 58 くらんど園地・三角点峰	実施年月日	2020/6/7	担当者	翁長、大石	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	964	例会No.	一般642	内容	金剛山	実施年月日	2020/6/14	担当者	西村(晶)、森本	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	965	例会No.	OP310	内容	武庫川・西ノ谷 沢登り講習会	実施年月日	2020/6/14	担当者	大石、山倉	
参加者										
担当者	コロナ禍中止									
コメント										
連番	966	例会No.	一般643	内容	金剛山・丸滝谷	実施年月日	2020/6/21	担当者	前田、杉本	
参加者	前田守、杉本康夫、山倉康次、有永寛、脇本勇二、森本善博、西村晶、板谷佳史、北山かな、上野あさみ、飯尾廣子、保木道代、西村美幸、大森朋江、寺島直子、安岡和子、村木とも子									
参加者数										17
担当者	3月末よりコロナの影響で山行が中止されていたが、約3ヶ月ぶりにやっと再開される事になった。今回行く金剛山丸滝谷は以外にもEPEでは初めての山行である。水越峠手前のトイレ前に集合して久しぶりの再会を喜び、3密を避けて行動するよう申し合わせて出発した。最初は石ブテ谷沿いの林道を登ると、大きい堰堤に突き当たる。そこから石ブテ東谷に入る。東谷を20分程登った所から、丸滝谷が始まる。2~3mの滝が続くが巻き道も有り難しい所はない。新緑の木々に囲まれて気持ちが良い。心配した水量も多くなく、沢を右、左渡りながら登る。途中大きなタヌキの腹のような滝が合流している。この滝が丸滝の由来と言われている。それを登らず本流を行くと、上の丸滝と言われる29m程の滝に当たる。念のためフィックスロープを張って通過した。後はルンゼ状の急登行くと尾根に出た。そこから山頂へ行く。金剛山頂では休憩をする所がない程人が多かった。下山は文殊尾根からババ谷へ下った。イナモリ草は終わりかけていたが、ササユリは所々咲いていた。毎日コロナで気分が落ち込む日々が続いたが、沢を登り、花を愛でた、久しぶりの山行でスカッとした気分で帰路に着いた。 記:前田									
コメント										
連番	967	例会No.	OP311	内容	和歌山・章魚頭姿山 歴史探訪シリーズ No.45 + α No.25	実施年月日	2020/6/28	担当者	小椋(勝)、大石	

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

参加者								参加者数	
担当者	雨天中止								
コメント									
連番	968	例会No.	OP312	内容	吉野山～大天井ヶ岳～洞川「近畿の山リレー登山No.19」	実施年月日	2020/7/5	担当者	山倉、板谷
参加者								参加者数	
担当者	雨天中止								
コメント									
連番	969	例会No.	OP313	内容	尾瀬～至仏山	実施年月日	2020/7/10～15	担当者	野原、板谷
参加者	野原勇、板谷佳史、安岡和子、前田守、大森朋江、保木道代、脇本勇二、上野あさみ							参加者数	8
担当者	<p>新型コロナの影響で当初計画した会津駒ヶ岳は小屋の予約が取れず、更に2日目宿泊予定の御池ロッジが今年は営業休止となるなど計画は大幅に変更となりました。</p> <p>7/11(土) 例年なら5月1日から運行の会津高原尾瀬口駅発沼山峠行きバス。今年は新型コロナの影響で7月1日から運行開始。御池で下車、13:00三条の滝を目指し登山ロスタート。御池田代、姫田代、上田代、ノメ田代、西田代と順調に通過していたが、西田代と天神田代の間辺りの濡れた木道で大森がスリップ転倒、左手首を押さえたまま動かない。ザックを肩から抜こうとするも「痛い、痛い！」と訴え、ザックを外させない。ザックを担いだままでは後の処置ができないため痛みを我慢してもらってやっとならザックを外す。左手首は膨れ、骨にひびが入ったか若しくは骨折と判断。リーダー持参の「応急ギブス君」(エア利用の固定具)を使い応急処置。三角巾で首に掛け、腕が揺れないようにシュリングで体に固定。大森の荷物は何のメンバーで分担する。その後、本人と板谷SLが御池に戻り救急車手配、遠く会津若松市内の病院まで救急搬送、整形外科医師により骨折と診断され午後10時過ぎ処置完了。現場に残った6名は計画変更、三条の滝をカットし温泉小屋への最短ルートにコース変更。17:30温泉小屋到着。緊急連絡先の杉本へ事故発生を報告。7/12(日) 早朝、板谷SLから大森の状況報告を受ける。板谷も尾瀬には戻らず、大森に付き添って大阪に帰るとの報告を受けたため、後任のSLに前田を指名する。当初予定した燧ヶ岳の見晴新道は梅雨の影響で泥濘が尋常ではない、膝近くまで沈み込むとの小屋従業員の助言を受け断念。燧ヶ岳の代わりに昨日カットした「三条の滝」を目指すことにした。「三条の滝」は尾瀬ヶ原の水が集まる滝で「日本の三大名瀑」に挙げられるだけにその轟音と水量に圧倒される。三条の滝を終えて一旦温泉小屋に戻り、尾瀬沼ヒュッテへ向けて再出発。6軒の山小屋が集中する見晴まで木道が続き両側にはお花畑が広がる。今日は一変楽なコースとなったので、時間を気にせずワタスゲ、ノアザミ、ニッコウキスゲ等々の花をじっくり見たり、写真を撮ったりとゆったりとした足運びとなった。見晴から先もほぼ木道が続く。樹林帯の中の濡れた木道は滑りやすく、慎重に歩いても何度もスリップ転倒する。樹林帯を抜けた湿原では右に尾瀬沼、左に燧ヶ岳を見る。途中の池塘では未の刻(午後2時)頃に咲くという「ヒツジグサ」の花を見ることができました。尾瀬沼ヒュッテ直前の湿原はニッコウキスゲの黄、ヒオウギアヤメの紫、ワタスゲの白等時間を忘れる一時を過ごす。尾瀬沼ヒュッテ15:20到着。早すぎるので再度湿原に出かけ、尾瀬の自然保護に生涯を賭けた平野長蔵親子の墓を訪れる。平野長蔵・長英・長靖親子がいなければ、尾瀬沼には車道が通り、尾瀬ヶ原は高さ100mのダムの底に沈んでいました。</p> <p>7/13(月) 今日は昨日のコースを逆に辿り見晴へ。その後尾瀬ヶ原を横断し山ノ鼻の至仏山荘を目指す楽な行程。今年の尾瀬は新型コロナの影響で入山者が極端に少ない。尾瀬ヶ原は木道を登山者が行列して歩いているイメージだが、今年は四方を見渡しても片手で数えられる人数。まったく人の存在を感じられない時もある。のんびり、ゆっくり花を愛で、周囲の景色を楽しむ至福の時を過ごしました。至仏山荘14時過ぎ到着。どの小屋でも体温チェックとマスク着用を求められる。食事の内容が1泊目より2泊目、2泊目より3泊目と良くなってきた。食事は対面ではなく壁に向かって摂る、新型コロナ対策スタイル。この至仏山荘は朝食後にコーヒーのサービス付。7/14(火) 今日は雨の一日。朝7時小屋出発、雨中の登山となる。至仏山は蛇紋岩で成り立っているとのことで滑りやすく、滑落事故防止のため山ノ鼻から至仏山にかけては登り一方通行、下り利用は禁止とされている山です。途中の坂道などは沢状態、水が流れ落ちている。至仏山頂に立つまではなんとか見えていた景色も、至仏山頂に立った時は完全にガスの中、まったく回りが見えない。しかし、足元のホソバヒナウスユキソウ(エーデルワイスと同種)やミツガンワなど多くの高山植物に心を癒されました。至仏山から小至仏山、悪沢岳分岐までは稜線西側は強風が吹き荒れていました。悪沢岳分岐からは風も収まり整備された木道を慎重に下る。14:40下山口の鳩待峠到着。今日は山ノ鼻出発から鳩待峠到着までまったく人に会わず。まるで至仏山貸し切り状態。天気が悪かったこともあるが、最も大きな要因は新型コロナであろう。今例会は最初から最後まで新型コロナに振り回された例会でした。当初は鳩待峠下山後東京経由で大阪へ帰る計画でしたが、東京に長時間滞在することの危険性を避けるため群馬県前橋回りで大阪に帰るルートに変更、また参加メンバーのひとりが骨折するという重大アクシデントもありました。そのことによって、新型コロナの影響で状況が逼迫している現地の消防、医療機関に手間を掛けたこと申し訳なく思っています。しかし、通り過ぎた過去は覆せません。怪我をした大森さんを含め我々もマイナス思考でなく、得難い経験をしたというプラス思考で今後の登山を楽しみたいと思います。</p> <p>記:野原</p>								
連番	970	例会No.	一般644	内容	台高・大洞山～尼ヶ岳「近畿の山リレー登山No.20」	実施年月日	2020/7/12	担当者	杉本、山倉
参加者	杉本康夫、山倉康次、西村美幸、黒澤百合子、佐野雅美、村木とも子							参加者数	6

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>7月に入っても連日の雨で太陽が恋しくなってきましたが、今日は梅雨の晴れ間が見えた貴重な一日でした。尼ヶ岳は遠くから見ると別名伊賀富士と言われるだけあって三角錐の綺麗な山容を見せています。杉平から新緑が美しい三多気の桜(みたけのさくら)の桜並木の中、のんびりと進む。幹周りが太く、中には幹が裂けて痛々しいサクラもありそれでも青々とした葉をつけています。地元の人たちによって手入れされ大事にされていることが判ります。桜の時期には露店も出て大勢の人たちで賑わっているようです。桜広場ではライトアップの設備もあり夜桜を楽しめるようですが今年はコロナの影響で中止されたそうです。三多気の桜は国指定名勝、「さくら名所100選」に認定されています。大洞山への登りは里山らしくピーク目指して直線的に登っていくコースが取られています。今日の一番長い辛い登りです。約1時間で大洞山雌岳に到着です。雄岳に漬く頃には太陽も顔を出しついでに西風も出てきて少しひんやりします。気分も上々で疲れも取れます。大洞山から北に四峰から一峰まで小さなピークで尼ヶ岳とのコルまで続いています。三峰と二峯の間の倉骨峠ではこの峠で撮影された映画「WOOD JOB！」のラストシーンの表示板がありました。尼ヶ岳の東面は樹木で展望がなく西面では180度の展望があり太郎生の集落が見渡せます。下りは急傾斜につけられた階段、それも所々壊れていて階段の横は落ち葉と泥で滑り歩きにくく、ひたすら下るのみでうんざりする頃やっと登山口に到着しました。記:杉本</p>								
連番	971	例会No.	OP314	内容	比良山脈縦走「近畿の山リレー登山No.21」	実施年月日	2020/7/18~19	担当者	小椋(勝)、野原
参加者								参加者数	
担当者コメント	<p>コロナ禍中止</p>								
連番	972	例会No.	OP315	内容	青山高原~笠取山「近畿の山リレー登山No.22」	実施年月日	2020/7/23	担当者	杉本、前田
参加者	杉本康夫、前田守、安岡和子、上野あさみ、和田敬子、中川由紀、西向美保子							参加者数	7
担当者コメント	<p>新型コロナウイルスの感染者が増加し出したため急遽泊りから日帰り山行に変更したが、出発前日には新規感染者が100人を超えたためか参加者が半数になってしまった。青山高原山頂小屋でタクシーを降りると人の気配が全くしない。この付近は今の時期多くの人で賑わっているのに、これもコロナの影響だろうか。青山高原最高点の三角点の髻山(744.8m)に登るとこれから通る名所になっている風車群が遠くに見える。ここから青山高原公園線の車道を挟んで西に東海自然歩道と東に遊歩道があり私たちは遊歩道に行くことにする。草が茂っているもののしっかりした道で丸山展望台からは遠く伊勢湾が霞んで見える。ここで2ヶ月の赤ちゃんを連れてご夫婦に出会いかわいいうちの赤ちゃんに心が癒やされました。歩道の周りは綺麗に刈り込まれ草原状になっていて寝転んでしまいたいような気持ちになる。アセビの新芽も赤、白、ピンクと花びらと見間違えほど綺麗で白い花より新芽の方が綺麗に見えます。ヒグラシもたくさん鳴いていて私たちが通ると一斉に飛びたち身体に当たるほどの数です。遊歩道から東海自然歩道に入り髻山から見えていた風車群の中に入って行く。風車を間近に見ることになるが、その大きさに圧倒される。何台かはガンガンと音を立てている。馬野溪谷から笠取山へは手をついて登るほどの急傾斜が高度差約100m続きそこを登り切ると林道に出る。林道を横切り5分ほどで笠取山に到着。笠取山の三角点は地図で確認すると防衛施設庁の柵で囲まれた中にあり触れられず、草で覆われているので確認することもできない。残念です。林道に戻りこの林道を歩くこと1時間45分で富永の集落に到着。タクシーで伊賀上津駅まで行き解散としました。記:杉本</p>								
連番	973	例会No.	一般645	内容	ベーシック登山No. 59 くらんど園地・三角点峰	実施年月日	2020/8/2	担当者	翁長、野原
参加者	翁長和幸、野原勇、三原秀元、佐野雅美、保木道代、寺島直子、西向美保子、喜多田恵美子、安本昭久、安本嘉代、村木とも子、脇本勇二							参加者数	12
担当者コメント	<p>獅子窟寺周辺には大岩が点在し面白そうなので出かけてみた。天田神社を過ぎると獅子窟寺へのコンクリート参道が始まる。4駆でないと登れないような急で狭い道が続く。早くも大汗をかく。本堂横手には獅子吼岩であろうか、重なりあった大岩がある。それぞれの大岩には名前が付いているらしい。印象に残ったのは潜水艦の先端が地中から突き出たような大岩であった。更に行くステップが刻まれた鏡岩が現れた。この岩の基部から下ると裏行場に出るという。少し下ってみた。この登り返しと今日の暑さを考えると、裏行場往復というのはツライものがある。残念です。尾根道に戻り、くらんど園地の最高点へ。最高点といっても320m弱。風もなく暑いだけである。すぐに「みはらしの路」に入る。「ながめがすばらしい みはらしの路」とパンフレットに書かれている。がまったく見晴らしはない。展望台が出てきたので登ってみる。このコースで周囲が見えたのはここだけ。「見晴らしのない路」のほうが合うような気がした。すいれん池あたりでヒルランニングの一行に出会う。着ているシャツはとてもカラフルで、おしゃれ感覚満点の集団であった。私たちの仲間もおしゃれな人が増えてきているが、リーダー連中はどこか野暮ったい。昔の「山や」といわれたなごりであろうか。平坦な道が急傾斜の階段道になり、月の輪の滝に出てきた。滝は対岸の石階段を10mほど登らないと見えない。小さな滝であるが弘法大師ゆかりの場所である。そのまま谷道から市街地へ。京阪私市駅にて解散。暑い中ご苦労様でした。記:翁長</p>								
連番	974	例会No.	一般646	内容	岩湧山	実施年月日	2020/8/23	担当者	西村(晶)、山倉
参加者	西村晶、山倉康次、上野あさみ、佐野雅美、安本昭久、脇本勇二、保木道代、前田守、喜多田恵美子、森本善博、森本咲穂、安岡和子、安本嘉代、西向美保子、村木正人、村木とも子、飯尾廣子、杉本康夫、有							参加者数	19
担当者コメント	<p>異常な暑さだいぶ和らいできたといえまだまだ暑いので、風通しの良いカキザコから鉄塔75の主稜線に上がる登山道に変更しましたが、やはり暑かったです。熱中症対策として30分程歩くと小休止をして、木陰を選び水分補給を行うのが重要と思います。稜線に出ると谷からの吹き上げる風がひんやりとして気持ちよく暑さを少し忘れさせてくれます。秋はもう少しです。岩湧山頂上周辺には沢山の夏花が咲いてます、ハギ、小鬼百合、キキョウ、ホトギス、河原撫子などしばし暑さを忘れさせてもらいました。山道ではブヨが離れずに付きまとってくるので追い払うのが大変でした。記:西村(晶)</p>								
連番	975	例会No.	一般647	内容	高野参詣道・町石道	実施年月日	2020/8/30	担当者	杉本、山倉

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

参加者	杉本康夫、山倉康次、板谷佳史、西村晶、西村美幸、佐野雅美、喜多田恵美子、中川由紀、森本善博、森本咲穂、渡辺健、前田守、安岡和子、牧村市和、河合幸夫、飯尾廣子、村木とも子、堀千秋					参加者数	18		
担当者コメント	<p>九度山駅の改札口を出ると肌を刺すような太陽が頭上に輝いてうんざりします。日差しを遮るものがなくコンクリート舗装された柿畑の道が余計に暑さを感じます。この暑さから逃れるため展望台はスルーです。160町石からは杉木立の中を進むようになると幾分か暑さをしのげるようになりました。約2時間で木陰のあるところで休憩するが、灼熱地獄のような状況に閉口、このまま続行して大丈夫かなと思うほどです。神田地蔵堂ではお堂の周りの日陰にへばり付くようにして休憩するが、目の前にはのどかな田園風景が望まれ気持ちが癒やされ金剛峯寺まで頑張ろうと言う気持ちになります。車の音が聞こえると矢立峠に到着です。予想以上の暑さで用意していた水分も心許なくなりこの自販機で水分補給です。このときほど自販機のありがたみを感じることはなかったです。矢立峠から金剛峯寺まであと60町石2時間です。最後の坂を上り目の前に大門が飛び込んでくると感激で満足感が湧いてきます。慈尊院から金剛峯寺まで180町石、酷暑の中誰も途中離脱することなく全員歩き通したことは非常に意義深いことです。みなさんたいへんお疲れさまでした。 記:杉本</p>								
連番	976	例会No.	OP316	内容	鈴鹿・那須ヶ原山～仙ヶ岳「近畿の山リレー登山No.23」	実施年月日	2020/9/4～6	担当者	杉本、小椋(勝)
参加者	杉本康夫、小椋勝久、板谷佳史、脇本勇二、保木道代、村木とも子、上野あさみ、佐野雅美					参加者数	8		
担当者コメント	<p>9月4日 鈴鹿山系は梅雨から秋にかけて山ヒルが多く柘植駅で山ヒル対策をして出発する。油日岳から東に延びる尾根は瘦せていて直登のみである。雨後の湿気と暑さで汗だくになりしっかり水分を取らないと熱中症になる。三頭山からのキレットは木の根、フィックスロープを伝ってのアップダウンが続く。途中で忍者山という興味深い山があったがルートから外れているのでパスをする。また、こんな低山で一瞬ではあるがブロックン現象が現れ驚きです。唐木キレットはダイレクトに行けないように白いテープが張ってあり巻き道を通して通過する。坂下峠からは林道を通して本日の宿へと向かう。</p> <p>9月5日 坂下神社からは東海自然歩道を石水溪まで歩く。鈴鹿峠から山女原(あけびはら)に続く山道で山ヒルが身体の数カ所に食い付かれ大騒動。早々に舗装道路まで移動して山ヒルの点検をする。石水溪からは長い登りが仙ヶ岳まで続く。南尾根ルートを行くが沢の中の道が続きやっと稜線に上がると目の前にロープの垂らしてある5mの岩壁が待っていた。ここを登っても仙鷄尾根はまだまだだ。仙ヶ岳まで瘦せた尾根が続き野登山、鎌ヶ岳が遠くに望まれ17時に仙ヶ岳山頂に到着する。暗くならないうちに沢中を抜けようと早々に下山開始する。途中からヘッドランプをつけて小岐須溪谷山の家の前でタクシーを待つ。長い一日でした。</p> <p>9月6日 台風と台風の狭間での山行であったが初日に雨に降られた程度で台風からの直接の影響がほとんどなかった。厳しい暑さの中、舗装道路を歩くという辛さもあったが歩き通せてたいへん良かった。痩せ尾根、溪谷美、好展望、山ヒル、蛇と変化のある2日間の山行でした。 記:杉本</p>								
連番	977	例会No.	一般648	内容	ベーシック登山No. 60 湖北・横山～鳥羽上山	実施年月日	2020/9/13	担当者	野原、翁長
参加者						参加者数			
担当者コメント	雨天中止								
連番	978	例会No.	OP317	内容	黒四ダム～針ノ木岳	実施年月日	2020/9/18～21	担当者	山倉、板谷
参加者						参加者数			
担当者コメント	コロナ禍中止								
連番	979	例会No.	一般649	内容	伊賀・霊山「近畿の山リレー登山No.24」	実施年月日	2020/9/20	担当者	杉本、板谷
参加者	杉本康夫、板谷佳史、佐野雅美、村木とも子、中川由紀、喜多田恵美子、中嶋恵子					参加者数	7		
担当者コメント	<p>西教山から霊山へは忍者トレイルランのコースとして大会が行われているようです。今年は11月1日に予定されていましたが新型コロナウイルスの影響で中止となったそうです。富永の集落を抜けると「忍者トレイル」の立派な標識があって難なく西教山のピークに立てるだろうと思っていた。ところがしばらく進むと道は踏み跡か山仕事道程度になり、ランコースとしてはおかしいと思いながら地形図の破線のとおりに進む。ついに道がなくなったので尾根通しに登ることになる。幸いなことに植林の中で雑木がほとんどないので比較的スムーズに登高することができた。西教山直下だけが藪漕ぎになりそこを抜けると綺麗に下草が刈られた尾根道に出る。どこかでランコースを見失ったようである。山頂には「危険、立ち入り禁止」と書かれた壊れそうな展望台があった。ここから歩きやすい登山道になり途中から東海自然歩道に入ると標識も出てきました。田代湖のダムの上には芝生が綺麗に敷かれ寝転がりたいような気持ちになる。1時間で霊山に到着。眼下には伊賀盆地、遠くに琵琶湖や比良山、青山高原の風車群が望まれ絶景を堪能した後舗装された道を一路柘植駅へと向いました。 記:杉本</p>								
連番	980	例会No.	一般650	内容	紀州元気の森～土仏峠～梵天山	実施年月日	2020/9/27	担当者	小椋(勝)、杉本
参加者	小椋勝久、杉本康夫、村木とも子、前田守、村木正人、小椋美佐、和田敬子、飯尾廣子、佐野雅美、安岡和子、馬場美穂子					参加者数	11		

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

担当者コメント	元気の森駐車場に集合し準備後挨拶を済ませ出発する。今日は林道歩きが主な行程になる。駐車場から林道に入り土仏峠に向かう、土仏峠は地図では林道沿いに記載されているが林道ができる前では少し現在の土仏峠より東の山中にある。今回はブッシュで覆われ取りつきがわからないので新土仏峠で休憩する。土仏峠から15分ほど歩き馬別れに着き北西に梵天山へと向かう、林道には栗、アケビなどがあり秋の気配を色濃くしていた。梵天山から展望台に向かい昼食後下山する土仏峠から元気の森に向かう途中からの景色は沼島や下津港から地島まで見ることができた。下山途中から元気の森に入る。ここからは登山道になりなぜかホッとする。秋の散策道を歩き根来山から駐車場に向かう。大谷新池を通過し最後の急登を登ると駐車場にでる。駐車場で挨拶を済ませ解散する。 記:小椋(勝)								
連番	979	例会No.	OP318	内容	東北・八甲田山と奥入瀬溪流	実施年月日	2020/10/2~5	担当者	板谷、杉本
参加者	板谷佳史、杉本康夫、脇本勇二、安岡和子、上野あさみ、村木とも子、保木道代、佐野雅美							参加者数	8
担当者コメント	10月2日 JRや送迎バスのきわどい乗り換え時間をこなして酸ヶ湯温泉にやってきました。今回はGoToキャンペーンの恩恵にあずかって実質半額で宿泊できる。明日に備えて入浴と食事でゆっくりと過ごした。 10月3日 早朝に出発したいので朝食は弁当にしよう。午後から天候は崩れそう、下山口でのバス時刻に間に合うかも気になり先を急ぐ。高度が上がると紅葉も進んでおり草紅葉も輝いてすばらしい景観を味わえる。最高峰の八甲田大岳の登りにかかると非常に強風になるが雨にはならず順調に強風の山頂に立つ。寒くて長居はできず仙人岱の分岐に戻って高田大岳への縦走路へ入る、とたんには人は減ってほとんど会うこともない。雨混じりの強風の中高田大岳に立つ、休憩は風を避けてハイマツの陰でとなる。あとは谷地温泉に向け折雨脚が強くなる中ほとんど一直線の路を下る。バスの時刻には余裕を持って下山出来てホッとする。二日目の宿も良い温泉に入れました。 10月4日 今日はハイキング気分で迎えるとタカをくったのがいけなかった、宿を出たとたん方向を間違えて皆さんに30分以上遠回りをさせてしまった。ルートに乗ってしまうと散策路と説明板を辿るのみ。途中売店、トイレなど適度に配置され雨の中ではありますが、楽しく辿りました。源流が十和田湖といういつもの沢登り例会にはあまりない溪流歩きでした。今日の終着地、子ノ口からのバスにも余裕を持って到着でき今日もホッとする一日でした。青森駅に戻り空路組と夜行バス組に分かれ、解散しました。 記:板谷								
連番	980	例会No.	一般651	内容	紀の川市・百合山(最初ヶ峰)~竜門山	実施年月日	2020/10/4	担当者	小椋(勝)、翁長
参加者	小椋勝久、翁長和幸、中川由紀、西向美保子、和田敬子、小椋美佐、森本善博、寺島直子、前田守、三原秀元、岩本和行、村木正人、黒澤百合子							参加者数	13
担当者コメント	打田駅で挨拶をして出発する。紀の川市の住宅街を抜け県道62号線を南へ進と目の前に竜門山の雄大な山容が見えてくる。竜門山から西に延びる尾根の末端に最初ヶ峰がある。竹房橋を渡り少し西に行くと弘法大師像が建つ百合山新四国八十八ヶ所の入り口に着く。ここから農道を歩き最初ヶ峰に向かう。最初ヶ峰は南北朝時代の古戦場跡らしい磐か何かあったのかな?しかし日本の古文書の記述は隅々まで残っているんだなど、あらためて感心する。庄前峠から寺山に向かう途中パラグライダーのテイクオフポイントがあり少し見学させてもらう。寺山から勝神峠を通り急な林道を龍門山へと向かう途中、ここにもパラグライダーのテイクオフポイントがあり休憩する。和歌山市から紀伊水道まで見渡せる絶景ポイント。ここからやっと山道になり30分程度で龍門山に着く。時間が差し迫っているので田代峠に向かわず中央ルートから下山し粉河駅へと向い解散する。今回も行程の2/3近く舗装道路を歩くことになる上、集合場所が和歌山線の打田駅、参加者は少ないのではと思っていた方が多くの方が参加しました。 記:小椋(勝)								
連番	981	例会No.	一般652	内容	金剛山	実施年月日	2020/10/11	担当者	西村(晶)、前田
参加者	西村晶、前田守、安本昭久、飯尾廣子、保木道代、安本嘉代、森本善博、寺島直子、村木とも子、黒澤百合子、佐野雅美、杉本康夫、北山かな							参加者数	13
担当者コメント	ゆっくりと山道を歩いていると足元に咲く花々に、少し足を止めて花を眺めてしまいます。ゆっくりと登山道を歩くのもいいものですね、色んなものが見えますよ。水越峠より緩やかな林道を進み橋を渡ってから尾根道までは傾斜がきつくなるのでゆっくりと登ります、稜線に出ると大きな登りもなく緩やかな尾根道を進みます、途中で白雲岳985mに寄り道をしますが入り口には道標も無く頂上には白雲岳のプレートが取り付けられていました、金剛山の北面は緩やかな尾根道がたくさんあり派手やかさは無いですがゆっくりと楽しめる山歩きでした。 記:西村(晶)								
連番	982	例会No.	一般653	内容	ベーシック登山No. 61 和泉山脈・奥山雨山自然公園西・東ハイキングコース	実施年月日	2020/10/18	担当者	翁長、紀伊壱本(節)
参加者	翁長和幸、紀伊壱本節雄、森本善博、喜多田恵美子、岩本和行、河合幸夫、牧村市和、和田良次、和田敬子、脇本勇二、村木正人、中川由紀、西向美保子、寺島直子、大森朋江							参加者数	15
担当者コメント	奥山雨山自然公園駐車場でバス組とマイカー組が合流。前代表の紀伊壱本さんから朝の挨拶を受け、駐車場横の西ハイキングコースから取り付く。雨山コースと合流後は、ひらけた砂礫の尾根道に変わる。右下には大木の集落、左下には永楽ダムの湖、遠くには六甲山が霞の上に浮いている。永楽池での昼食後、東ハイキングコースに入り、第一展望台を目指す。展望台からの眺望はおよそ360度OK。しかし今日は、淡路島や関空は霞んで見えない。東には金剛山が、南には和泉葛城山から三峯山、城ヶ峰が、北には大阪湾のむこうに六甲山が見えている。近くは熊取町や泉州地域の市街地が広く見渡せる。まことにビューポイントである。芝生公園から第二展望台へ。展望台から東に岩壁が見えている。結構大きそうだ。下山途中に岩場の基部まで行ってみた。傾斜のある相当大きな壁である。真新しいボルトが上部へ続き、足元にはアンカー用のボルトが数本あった。どこかのクラブが組織的に整備されているようだ。林道に戻り舗装道路からダムを渡り、駐車場へ。駐車場前で14:30解散した。今回の目玉は展望の良さであったが、残念ながら関空方面や淡路島は霞で見えなかった。霞の上に浮かんでいる六甲山や遠く金剛山、和泉山脈の主稜が見えていたのが幸いであった。ここは春が良いようだ。ダム湖の周りには桜がたくさんあり、大変にぎわうとの事であった。 記:翁長								

2020年度('19/11~'20/10)EPEクラブ活動報告

2020/10/E現在 板谷

連番	983	例会No.	OP319	内容	京都北山・魚谷山	実施年月日	2020/10/18	担当者	杉本、野原		
参加者	杉本康夫、野原勇、有永寛、保木道代、佐野雅美、飯尾廣子、村木とも子、前田守、三原秀元							参加者数	9		
担当者コメント	<p>惣谷の林道に入り30分ほど歩くと目の前に倒木の山が現れる。倒木の山を、くぐったり、またいだり、高巻きの様なことをしてどうにか通過する。3カ所通過し終わるとズボンや上着、ザックは泥だらけになった。林道も尾根上を通るようになると、視界が開け西側には愛宕の山々が望まれる。この付近からは地道になり歩きやすくなる。魚谷峠からは登山道になり約15分で魚谷山の頂上に到着。残念ながら立木に覆われ視界がきかない。ここから滝谷峠まではあまり人が入っていないようで道は獣道かと思ふほど草で覆われ荒れている。20分ほど下ったところで沢が合流し開けたところに北山荘の建物が建っている。そこから少し離れて「ひっそりと」と表現して良いところに今西錦司レリーフを発見。そこから少し離れた所に西堀栄三郎の「雪山賛歌」の歌詞を紹介した碑が建っている。お2人は義兄弟だそうです。滝谷峠から奥貴船橋までは山の斜面が崩落し通過するのに難渋したと聞いていたが、崩落カ所にはロープが張ってあり問題なく通過することができた。貴船神社まで来ると新型コロナウイルスの影響があるものの観光地らしく多くの日本人観光客で賑わっていた。記:杉本</p>										
連番	984	例会No.	OP320	内容	紅葉の天生湿原と靱糠山	実施年月日	2020/10/24~25	担当者	山倉、板谷		
参加者	山倉康次、板谷佳史、北山かな、保木道代、上野あさみ、村木とも子、森本善博、森本咲穂							参加者数	8		
担当者コメント	<p>10/24 10時に難波集合でマイカー3台に分乗して今日は天生峠までです、天気は上々です、東海北陸道に入りしばらく走ると雨模様です。白川郷ICを降りる頃には結構降っています、予定していたスーパーマーケットが午後から閉店で仕方なく唯一のコンビニで夕食を調達して峠着、雨はみぞれに変わり雪となってきました。テント設営は断念して管理員の許可を得て登山口休憩所で宿泊することとしました。</p> <p>10/25 昨日の雪も昨夜10時頃にはやんでいました、車の屋根には雪が積もっています。6:30入山手続きを済ませ出発、気温は0度です、7:10天生湿原着、積雪は5cm程度、紅葉と積雪と上部の稜線は樹氷が見られ絶妙な景色です。今日は私たちが最初のパーティーで雪の道にはふみ跡はありません、から谷分岐でコースは3方向に分かれます、今日は東側の木平探勝路を辿り靱糠山往復後カラ谷登山道を下山する予定です。高度を増すとなかなかの積雪で木々が雪の重みで登山道を遮っています、靱糠山に9:40着、積雪は10cm程度でした。この季節紅葉を求めて多くの登山者が見られるようで、今日も予想外の積雪ですが、多くの登山者が見られました、12時過ぎ登山口に到着、白川郷の湯で入浴し帰阪しました。記:山倉</p>										
一般例会(新年会含む)		: 39回 / 392名		オプション例会		: 25回 / 99名		例会合計 : 64回		参加者総数 : 491名	